



コダックの Sonora XJ で現像工程をなくし、トータルコストを大幅に削減。Magnus Q800 の高速性能との相乗効果で生産効率は 2.5 倍になりました。

24 時間稼働の油性／LED UV 印刷機に月平均 3,000 版の Sonora XJ プロセスフリープレートを供給。MCU 付き Magnus Q800 プレートセッターが、長時間の無人運転で夜間でも万全な刷版供給体制を確立。

24 時間稼働の工場で 社内一貫生産体制を構築

長野県長野市を拠点に活躍する株式会社杏花印刷は、創業 50 周年を迎える老舗印刷会社である。設立当初から内製化を推し進め、多くの印刷会社が効率優先で分業化を図る時代でも、製版から印刷、製本まで一貫した社内生産体制を自社の強みとしてビジネスを拡大してきた。現在は従業員数 25 名と小數精鋭ながらも、24 時間稼働の印刷工場を基盤に幅広い印刷ビジネスを

展開。大手印刷会社の厳しい基準をクリアした質の高い仕事は県内外の顧客から厚い信頼を獲得している。Web 事業は他社に先駆けて約 10 年前からはじめ、印刷通販サイト「よろこびプリント」では、名刺からチラシ、フライヤー、中とじ・無線とじ冊子まで、多種多様な印刷物を一貫生産ならではの低価格・短納期で提供している。近年ではスポーツ出版事業にも参入し、長野県のスポーツ情報をプロ・アマくまなく網羅した A4 判 52 頁のフリーマガジン「Nsports」を年 3 回発行。デザイン・編集作業まで社内で行けるなど、ビジネスの幅を大きく広げている。

コスト削減と生産性向上の 切り札として導入

同社が Kodak Magnus Q800 プレートセッターと Kodak Sonora XJ プロセスフリープレートを導入したのは、2015 年 8 月のこと。コダックが Sonora XJ の販売を開始して間もない頃だった。代表取締役社長の赤地精氏は、導入の経緯について次のように話している。

「10 年前に購入した国産の CTP が古くなり、機械の入れ替えを考えていました。自動現像機から出る廃液問題にも悩んでいましたが、新しく発売



同社が編集・発行するフリーマガジン「Nsports」



代表取締役社長 赤地 精 氏



工場長 中村 正一 氏



製版部 部長 神戸 武司 氏

されたコダックの無処理版 Sonora XJ なら処理費用が削減でき、環境にもやさしいとご提案いただき、検討をはじめました」

Sonora XJ の印刷テストを社内で実施し、工場長の中村正一氏が「網点の出方も今までの刷版と変わりなく、問題はない」と太鼓判を押した。運用コストは他社製品とも比べてみたが、トータルで削減できるのはコダックしかないと確信して赤地社長は導入を決断した。Magnus Q800 の高速性も、社長の決断を後押しした。

夜間無人運転を含め 1日強で560版を出力

同社が導入した Magnus Q800 は最大 500 版が搭載可能な MCU (マルチカセットユニット) 付きの X スピードモデルで、最高出力速度は毎時 45 版。長時間の無人運転も可能なため、24 時間体制の印刷工場に適した万全の製版体制を整えることができた。製版部 部長の神戸武司氏は、従来機との違いを次のように説明してくれた。

「以前は刷版を少ししか積めなかったのが、夜間運転する場合は夜勤の人に版の補充をお願いしていました。今は出力指示を出したら、そのまま無人で朝まで連続運転が可能です。手差しの頃と比べれば、雲泥の差ですね」

導入から半年が経つが、同社は月平均 3,000 版を出力し、新たに導入した LED UV 印刷機や菊全判 8 色両面印刷機などに供給している。その間には、わずか 1 日強で 560 版を出力したこともあるそうだ。製版部 CTP 担当の丸山直希氏は「以前の CTP では考えられない」と Magnus



製版部 CTP 担当 丸山 直希 氏

の瞬発力に驚いている。また、コダックのリモートサービスに対しても親身にサポートしてくれると評価している。

Sonora XJ の導入で 廃液処理コスト／薬品購入費用はゼロに

刷版を Sonora XJ に変更し現像工程をなくしたため、製版部門の手間は大きく削減した。丸山氏も満足げに次のように話している。

「現像液の管理やローラーの掃除など、面倒なメンテナンスが一切不要になりました。以前は長い休みの前に全員で自動現像機を掃除するのが習慣でしたが、今ではそれすら必要ありません」

手間が省けた分、データの確認などに時間をかけられるようになり、ケアレスミス削減にもつながっているという。また現像不良や地汚れ、現像カスの付着など現像機に起因する刷版トラブルが一切なくなり、印刷品質の安定化にも貢献している。出力した刷版はそのまま印刷機に供給できるため、製版工程の生産効率は Magnus Q800 の高速性と相まって約 2.5 倍に向上したそうだ。赤地社長は「年間 100 万円以上かかっていた薬品の購入、廃液処理コストがゼロになった」とコスト面でのメリットを強調する。Sonora XJ の耐刷性を高く評価するのは中村工場長だ。

「油性印刷機での実績は 7 万枚ですが、10 万枚ぐらいなら充分対応できていると思います。LED UV 印刷機は小ロットの仕事が中心なので、2～3 万枚程度の実績しかありません。ただ 5～6 万枚なら問題なく刷れるでしょうね」

刷り出しから数枚で機上現像が終わり、素早く



MCU 付きの Magnus Q800 プレートセッター

OK シートが得られるのも Sonora XJ の大きなメリットだ。ただ乱雑に扱っていると傷がつくこともあるので、丁寧な取り扱いを徹底していると中村工場長は指摘する。視認性も弱点のひとつだが、製版部門がしっかりしているので気にならないと断言する。今回の設備更新によって、工場の生産性を飛躍的に高めた同社は、ビジネス拡大へと大きく舵を切ることが可能になったようだ。実際、赤地社長は「自分たちの仕事は自分たちでつくる」を基本に同人誌や広報誌の印刷サービスをはじめ、Web サイトのリニューアル、Nsports の充実化、ソーシャルビジネスへの展開など印刷の枠を超えたチャレンジをはじめている。コダックもまた、確かな技術とサポートで同社を支え続けてゆくだろう。

株式会社杏花印刷



代表取締役：赤地 精
本社所在地：〒381-0003
長野県長野市大字穂保字夫婦池 436-12 (北部工業団地)
TEL: 026-296-8373 FAX: 026-296-8378
<http://www.kyoka-p.com/>

コダック 合同会社

〒140-0002 東京都品川区東品川 4-10-13 TEL.03-6837-7285 (営業代表)
大阪：050-3819-1266 名古屋：050-3819-1265 福岡：050-3819-1270
仙台：050-3819-1255 札幌：050-3819-1250 金沢：076-200-9583
製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com
<http://www.kodak.co.jp>